

令和8年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第1回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

■第1回 課題1 (滝坂の道～春日山遊歩道南部)

実施日：2026年4月29日(水・祝) 9:00～14:30

参加者：20名 (ESD原論：14名 ESDティーチャープログラム：3名) *欠席1名

教職員：杉山、及川、中澤

概要：旧柳生街道の滝坂の道から首切り地蔵まで歩き、春日山遊歩道を降ります。春日山の歴史的背景と自然の魅力・課題に触れます。

スケジュール	
9:00	春日山遊歩道南部入口集合・挨拶・アイスブレイク
9:20	滝坂の道まで移動(白乳神社、石仏、ディアライン、鹿垣)
9:30	滝坂の道入口(妙見宮参道)にて五感の体操、耳を澄ます、寝転ぶ
10:00	滝坂の道を歩きながら解説(シカの影響、植生保護柵、カギカズラ、ムクロジ等)
10:30	石仏群(寝仏、夕日観音、三体地蔵、滝坂地蔵)の解説
11:00	ループを使ってコケの観察
12:00	昼食・首切り地蔵・解説
12:30	高山神社見学、春日山遊歩道を下山
14:15	春日山遊歩道南部入口到着・解散

■概要報告

今年度より、「ESD原論」でのフィールドワークも兼ねていることもあり、参加者全員が1回生となりました。入学直後で専修ごとに固まる傾向が見られたため、今回はアイスブレイクとして「誕生季節」でグループとなり出身地や本日の期待などを共有する自己紹介からスタートしました。

高畑町から市の井を経て、旧柳生街道へ。道中では、春日大社末社の白乳(しらち)神社や石仏を巡りながら、春日山原始林と春日大社の宗教的なつながりを解説しました。また、植生に見られる「ディアライン」や「鹿垣(ししがき)」を確認し、シカが環境に与える影響について理解を深めました。

原始林入口での準備体操の後、「五感をひらくアクティビティ」を実施。目を閉じ、風や光を感じた後、耳を澄ませて川の音や野鳥の囀りに集中しました。さらに地面に横たわり、背中で森を感じる体験も。最初は戸惑っていた学生たちも、次第に五感を通して森のリズムを体感している様子でした。

滝坂の道では、50年前の写真と比較しながら、シカによる植生変化の現状を実感しました。また、石畳に残る車輪の轍(わだち)や、カギカズラ、ムクロジといった特徴的な植物、点在する石仏群についても解説。苔むした倒木の観察では、ループを用いてミクロの視点からも森を探索しました。

首切り地蔵にて昼食をとり、地獄谷や春日大社・興福寺の相関関係について解説。遊歩道沿いの高山神社では、ここが「水源地」として守られてきた歴史に触れ、宗教的な畏敬の念が結果として理にかなった自然保護に繋がってきた背景を学びました。

復路ではキビタキやオオルリの声に耳を傾け、スギやケヤキの巨木を仰ぎ、クスノキの葉の香りを嗅ぐなど、最後まで豊かな自然を体験。最後に「奈良には他にはない貴重な資源が身近にある。この環境を存分に活用してほしい」と伝え、活動を締めくくりました。

■写真



森でねころぶ



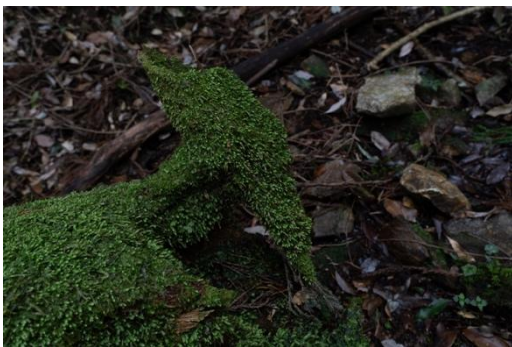
滝坂の道の過去との変化に気づく



石仏（寝仏）の鑑賞



ルーペを使ってコケの観察



苔むした倒木



妙見宮